



NEWSLETTER FOR JAPANESE DIVISION OF  
THE INTERNATIONAL ASSOCIATION FOR  
DENTAL RESEARCH

## 国際歯科研究学会日本部会 部 会 報

1980 - II

11月

本年は日本部会にとって歴史に残る記念すべき年であった。6月1・2・3日に第8回ICOB (International Conference on Oral Biology, 国際口腔生物学協議会)が東京において開催され、それに続いて5・6・7日に第58回IADR総会が大阪において開催され、いずれも国の内外から多数の出席者を集め、成功をおさめたのである。それぞれの学会の準備と運営にあたられた現地準備委員会の方々の御努力を高く評価し、感謝の意を表すると共に、日本部会として誇りに思うものである。

考えて見ると、IADR総会の日本での開催を受け入れることを決議したのは1972年12月に小田原で開催された第20回日本部会総会の席上であった。その後、1978年の第56回総会を日本で開催する予定で公式手続をとったが、種々の事情から延期となり、その後、1977年のコペンハーゲンでの第55回総会で1980年に第58回総会を日本で開催することが決議されたのである。

その後、1977年には先ず、IADR大阪大会に対する組織委員会が組織され、委員長として河村洋二郎教授(阪大)が就任され、60人の組織委員の参加を得て準備活動に入ったのである。一方、ICOB東京大会に対しては現地準備委員会が結成され、委員長として大西正男教授(東医歯大)が就任され活動を開始した。

以来、両委員会は先ず広報活動を展開し、一方、ワシントンの学会本部と緊密な連絡をとりながら会場の決定、プログラムの作成、関連行事の立案、等の作業を行って来た。特に、IADR大阪大会については現地の会員を中心とした実行委員会(委員長 河村洋二郎教授)が編成され、又、日本学術振興会の援助を受けることになった。

学会開催までにおける各委員の方々の御苦勞は言葉に云いつくせぬものがあったことと思  
われる。しかし、予期以上の出席者を得て、すべての行事を無事終えることが出来、それに  
対する国の内外からの評価も極めて高いものであった。関係者の方々に深く感謝するもので  
ある。IADR大阪大会関係では、尚、残務整理に従事しておられるとのこと、その方々の御  
自愛を祈る次第である。

日本において歯科学関係でこれほどの規模の国際学会が開催されたことはかつてなかった  
と云ってよい。これが機会となって国内・国外の学者の交流が今までに増して活発になった  
ことは確かである。特に、日本人の業績を海外に知らしめる意味で大きな役割を果たしたと思  
われる。その意味で、本年は日本の歯科学の歴史に残る重要な年であったと云うことが出来  
よう。

## I 事務報告

### A 出張

- 1) 田熊庄三郎会長 1980年10月9日 IADR本部(ワシントン)  
日本部会事務打合せのため
- 2) 河村洋二郎理事 1980年10月14日 IADR本部(ワシントン)  
第58回大阪大会、最終事務処理のため

### B 会議

- ・第6回理事会：1980年2月22日 日本歯科大学第1会議室

出席者：田熊会長、森副会長、須賀事務局長、河村、三浦、川原、船越各理事  
大西名誉会員

- (1) IADR大阪大会準備状況 (河村理事)
- (2) ICOB東京大会準備状況 (大西名誉会員)
- (3) 第27回 IADR日本部会総会報告 (高添理事)

(内容略)

- ・第7回理事会：1980年10月31日 日本歯科大学第1会議室

出席者：田熊会長、森副会長、須賀事務局長、河村、川原、三浦、船越各理事  
大西名誉会員

## 1. 報告事項

- (1) 事務局報告

a 現在の会員数 (10月31日現在)

正会員 617名  
賛助会員 7名  
名誉会員 4名  
手続中 23名

b 経理状況の中間報告

10月25日までの状況の報告を行った。従来からの例に従い、10月31日で今年度の収支決算を行い、12月4日の理事会と12月5日の総会において報告を行う。

(2) ICOB東京大会の報告(大西名誉会員)

ホテルニューオータニにおいて6月1・2・3日に開かれた同大会は成功裡に終了したことが報告され、関係者に対して感謝の意がのべられた。特に、今田喬士(医歯薬出版社長)の事務局長としての御協力が大きかったことが紹介された。

出席者数	外国人(28ヶ国)	361名
	日本人	729名
	歯科医	494名
	歯科衛生士	210名
	その他	25名
		<hr/>
		計1,090名

同大会の状況の詳細は下記で報告されている。

大西正男：第8回国際口腔生物学協議会報告，日本歯科医学会々報，第6巻第9号，p.20-24，1980.

飯塚喜一，石井拓男，上原信，森本基各氏による分担執筆：特集 第8回国際口腔生物学協議会 (ICOB) に出席して，日本歯科評論，第455号，p.140-164，1980.

又，各報告の内容は近く Journal of Dental Research に掲載される。

(3) IADR大阪大会の報告(河村理事)

ローヤルホテルにおいて6月5・6・7日に開催された同大会は無事，成功をおさめて終了したことが報告され，関係者に対する感謝の意がのべられた。

a 出席者数

外国人(28ヶ国)	321名
日本人	1,021名
	<hr/>
	計1,342名

その他、同伴者、報導関係、企業関係、等を加えると約2,000名に達する。

- b 会計報告は12月5日の日本部会総会において実行委員会の常光財務委員長から報告事項として報告される。尚、決算報告は明年3月の第59回シカゴ大会の理事会で行われる。
- c 免税措置募金関係の報告は本年12月中に日本学術振興会より発行される報告書によって行われる。
- d 組織委員会は12月6日に行われる会合を以って解散する。
- e 大阪大会開催にあたって貢献のあった日本歯科商工会(会長森田福夫氏)、日本歯磨工業会(会長金田博夫氏)、ポスターデザイナー川畑博昭氏に対して日本部会の席上で感謝状が贈呈される。
- f 同大会の詳細は下記で報告されている。

河村洋二郎：第58回国際歯科学会(IADR)総会を終って、日本歯科医学会々報、第6巻、第10号、p.15-19、1980。

第58回国際歯科学会総会特集：日本歯科評論第456号、1980。

- g 英文記録は明年早々に“Chronicle of the 58th General Session of International Association for Dental Research”としてクイントエッセンス社から発行の予定

#### (4) 第28回日本部会の準備状況

準備委員長の高添教授は海外出張中のため田熊会長より報告された。

演題数 62題(1会場で行う)

(今回はポスターセッションは行わない)

## 2. 協議事項

- (1) Public health promotion committeeのメンバー選任について(田熊会長)

本部より上記委員会の編成にあたって日本側の協力の要請があった。それに従って日本部会としては田熊会長からどなたかにchairmanを委嘱し、メンバーの選出をお願いすることになった。

- (2) 日本部会の名称変更について(田熊会長)

日本部会はその会員数もすでに600名を越え、早速やアメリカを別にするとイギリス部会に次ぐ大きな組織になっており、しかも、日本の研究の質的レベルは諸外国に比しておとるものではない。このような状況から部会の事業の拡大と、運営の自主性をある程

度持つことが期待される。この様な観点から日本部会の名称を Japanese Division から Japanese Association for Dental Research と改め、それに応じた機構を持つことがふさわしいのではないか。これについては先のワシントンの本部訪問に際しても討議して来た。前例としてすでに北米部会が American Association for Dental Research に、カナダ部会が Canadian Association for Dental Research に名称を改めている。

以上の提案に対して種々討議が行われた後、理事全員の賛成が得られた。従って、12月の日本部会の総会においてこの件を提案し、承認を得られたならば、明年シカゴ大会での理事会に提出することになった。

もし承認を得た場合には会則を改正しなければならないことになる。更に、又、将来の事業計画の重要なものとして欧文の機関誌 (Japanese Journal of Dental Research (仮称)) の刊行が考えられる。これらを検討するため Ad hoc 委員会の編成の必要が考えられる。

(3) アジア地域における IADR activity の発掘について (田熊会長)

アジアにおいて IADR の部会組織を持つのは日本のみである。他の国々では会員がおりながら組織がなく、又は、会員になることを希望する研究者を多くかかえている国々もある。日本部会としては、前者に対しては新しい部会を作る様に働きかけ、又は、協力する立場をとり、又、後者に対しては新入会者の推薦を行いたい。又、本部には International Relation Committee (河村理事がメンバー) があり、それとも連絡をとり作業をすすめたい。

(4) 大西正男名誉会員、河村洋二郎理事に対する感謝状の贈呈について (田熊会長)

本年の ICOB 東京大会において現地準備委員長としてその組織と運営にあたられた大西正男名誉会員と、IADR 大阪大会において名誉会長、組織委員長としてその組織と運営にあたられた河村洋二郎理事の貢献をたたえる意味で日本部会から感謝状を贈呈することの提案があり、全員賛成で決定した。

感謝状は12月5日の日本部会総会の席上贈呈される。

(5) 田熊庄三郎会長に対する感謝状の贈呈について (須賀事務局長)

田熊庄三郎会長は本年末をもってその任期を終わられ森次期会長と交代されるが、同会長の任期中の功績に対して日本部会から感謝状を贈呈することを提案した。

又、本部会長の交代に際してもこの様な習慣があり、日本部会においてもこれを今後の習慣としたいことも提案した。これらに対して全員賛成で可決した。

感謝状は12月5日の日本部会総会の席上で贈呈される。

### 3. インフォメーション

(1) 第28回 IADR日本部会総会

1980年12月5日(金), 6日(土),

会 場 野口英世記念館

東京都新宿区大京町26

電話 (357) 0742

12月5日(金)の12:35~14:05に総会議事が行われる。又、19:15から会館内「ガーナ」で懇親会が開催される(当日、受付も可能)。

プログラムはすでに会員宛に発送済みですが、臨時会員のためには会場に用意がありません。

(2) 下記の会合について日本部会々員に連絡してほしいむね依頼がありましたので御紹介いたします。

## ANNOUNCEMENT AND CALL FOR PAPERS

### International Conference on

### “Factors and Mechanisms Influencing Bone Growth”

To be held at UCLA, Los Angeles, California, January 5-7, 1982

A primary objective of the conference is to update and integrate our understanding of the growth of bone with new knowledge and to offer directions for future research. The contents will cover factors and mechanisms which influence both prenatal and postnatal growth and development of bone, both general and craniofacial, from the subcellular to the gross level. Experimental approaches to normal bone growth will be emphasized with only limited attention to craniofacial anomalies. Titles including a 100-200 word abstract in English are solicited from various biological and other disciplines including but not limited to anatomy, anthropology, computer science, dentistry, mathematics, medicine, morphology, zoology. They should be submitted for consideration as soon as possible, but no later than June 30, 1981 to the address given below. Attendance at the Conference will be limited.

Andrew D. Dixon  
Bernard G. Sarnat  
Dental Research Institute  
School of Dentistry  
Center for Health Sciences  
University of California Los Angeles  
Los Angeles, CA 90024, U.S.A.

- (3) 河村洋二郎理事には口腔生理学研究と学術交流に対する功績により、スウェーデン国王陛下、並びにスウェーデン政府より下記の勲章が授与されました。

Insignia of Commander of the Royal Order of the Northern Star

尚、授与式は11月18日にスウェーデン大使館において行われました。

---

国際歯科学研究学会 (IADR) 日本部会事務局

〒102 東京都千代田区富士見1-9-20

日本歯科大学歯学部病理学教室内

電話 (03) 261-8311 内線291・292